

2020年度 学校関係者評価報告書

福島医療専門学校
学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会は「2019年度学校自己評価結果」に基づいて学校関係者評価を行いました。その結果を以下の通り報告致します。

1. 開催日時・場所

日時：2020年11月8日(日) 13時00分～14時20分

場所：福島医療専門学校 本部・柔整科校舎会議室

2. 出席委員（敬称略）

《企業等委員》

菅野 洋子	一般社団法人 福島県歯科衛生士会 監事
三瓶 直之	安積野さんぺい整骨院院長
松岡 伸幸	つつみ鍼灸整骨院 院長
山本 忠臣	福島医療専門学校康友会 会長

《学内出席者》

飯島 正治	校長
木野 達司	副校長
齊藤 慎吾	教務部長
鈴木 英明	教務副部長
柴田 佐智子	教務副部長
伊東 秀高	柔整科学科長
千木良 美歩	鍼灸科学科長
今泉 正子	歯科衛生士科学科長
大橋 健次	事務局長
小池 一幸	総務課長

3. 委員会の概要

- (1) 開会
- (2) 校長挨拶
- (3) 2019年度学校自己評価報告
- (4) 質疑応答・意見交換
- (5) 学校関係者評価委員による評価
- (6) 評価の講評
- (7) その他
- (8) 閉会

4. 教育の目的・目標

《建学の目的》

「福寿高尚の教育」

21世紀を迎え、生きがいのある「福寿」に満ちた長寿社会の構築を目指し、「医は仁術である」という崇高な精神のもとに「高尚」の教育を推進し、医療社会に貢献できる人間性豊かな人材を育成することを目的とする。

《教育目標》

- ①深い教養と諸能力を持つ人間を育てる
- ②医道に奉仕する心を持つ人間を育てる
- ③自然を敬い、生命の尊厳を重んじる人間を育てる

《教育方針》

- ①深い教養と諸能力を迫及する「創造教育」

グローバルな時代の中で、高い次元から「より深い哲学的教養を養い、文化を創造する能力」を育てる。

- ②倫理観と向き合い、人間愛にあふれた「医術教育」

医道を極めるにふさわしい臨床的技術を追求する過程において「思いやりと優しさに裏打ちされた奉仕の心」を育てる。

- ③美しいものに感動し、自然と人間のあり方を探求する「環境教育」

宇宙では、人間をはじめすべてのものは固有の生命を持ち、どれが中心ということはない。「生きとし生けるものは総て生かされている」という自然観を敬う心情を育てる。

《令和元年度重点教育目標》

体験・体感させる教育の充実と拡大
教育IT化の推進

5. 項目ごとの評価・課題・意見

※自己評価は4(適切)を最も高く、1(不適切)を最も低いものとする。

(1) 教育理念・目標

評価項目	評価
1) 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4.0
2) 医療専門学校としての医療人教育がなされているか	3.8
3) 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3.8
4) 学校の理念・目的・育成人材像・特色などが教職員・学生・保護者等に周知されている	3.8
5) 各学科の教育目標、人材育成像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3.6

<課題と改善方策および委員会の意見>

Onedrive の教育資料の閲覧を中心としてどこでもいつでも見ることができるオンライン教育資料の提供化をおこなっており、各自の自主性を尊重した教育環境を整備している。また Teams アプリを使用して学生・教職員間の情報共有をすすめより一層の活用と利用方法の開発と教員を含めた IT 教育充実が課題。

柔整・鍼灸・歯科衛生各学会と協力し業界との交流を積極的に行っている。ただ限られた人材と時間で対応せざるを得ず、方向性を再確認しそれに向けた人材開発を行い、さらなる新たな人材と既存の人材の活用・確保充実を図っていく。

学校説明会だけでなく、学校主催の各種イベントを開催し、東洋医学や口腔衛生の知識の普及を積極的に行っているが、限られた人材と時間で対応せざるを得ないため十分とは言えない。学業充実が第一でありおのずと時間的・人材的な制限はある。

日本語学科や保育園の運営に増員した新たな人材の教育や法人としての方向性の確認をしつつその徹底を図っているが人材教育の時間の確保が難しい。

(2) 学校運営

評価項目	評価
1) 目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.9
2) 運営方針に沿った事業計画が策定されているか。事業計画の共通理解がなされているか	4.0
3) 運営組織や意思決定機能は、規則や校務分掌等において明確化されているか	4.0
4) 校務分掌における役割と職責が明確化され、有効に機能しているか	3.8
5) 人事、給与に関する規定等は整備されているか	3.8
6) 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3.8
7) 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3.8
8) 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3.8
9) 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4.0
10) 組織内におけるパワーハラスメントやセクシャルハラスメントへの対策が図られているか	3.6

<課題と改善方策および委員会の意見>

全体として適正に運営されている。

各委員会や組織ごとの連絡会での議事録等をオンライン化しており、いつでも確認できる体制は取っている。オンライン共有化を進めており、一定の効果がみられる。筆記者を含めアップロードの実行・確認をさらに進め、情報の共有と活用を図る。特に日本語学科では教育が必要である。姉妹校間や各教職員間でも teams 等の情報交換ツールを活用していきたい。

特に非常勤講師の採用が人・時期・資格等の問題があり、臨機応変に対応せざるを得ないことがままある。年度末での急な移動等があり難しい面がある。できる限り余裕を持った人事計画を立てたい。

十分にコンピューターに習熟していない職員もいるが、その教育・説明のための研修会を不定期であるが複数回開催しているが、さらに回数を増やしたい。

OneDrive 上への動画や図表のアップロードと適切な使用によってより効果的な教育内容の説明・公開ができるようにする。Office365 オンラインアプリ等の活用を進める。

数年前よりストレスチェックを実施しており、健康診断も適正な環境で行っている。

ハラスメント対策は研修会等を通して啓もうしていきたい。

(3) 教育活動

評価項目	評価
1) 教育理念等に沿ったカリキュラムの編成・実施方針等が策定されているか	4.0
2) 一定の到達レベルを目標とした教育や学習時間の確保がなされているか	3.6
3) 各学科のカリキュラムは体系的に編成されているか	4.0
4) 医療人の職業教育という視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4.0
5) 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3.9
6) 関連分野における実践的な職業教育（産学連携による実技・実習等）がカリキュラムに組み込まれているか。	4.0
7) 授業評価の実施・評価体制はあるか	4.0
8) 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4.0
9) 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4.0
10) 国家資格取得に関する指導体制を体系的に明確に位置づけているか	3.5
11) 教育理念、教育目標の達成に向けて、授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3.7
12) 関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどの取り組みが行われているか	3.7
13) 関連分野における先端的な知識と技能等を修得するための研修や教員の指導能力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	3.7
14) 教職員の能力開発のための研修等が行われているか	3.5

<課題と改善方策および委員会の意見>

補講や補習などの時間は、計画をもって事前に通達し、学生が通常授業以外の講義を受講しやすい環境を作る。また、ICT 教育を進め自宅でも学習できる環境を確保する。入学当初からの学習習慣の徹底と資格認識の向上を行っていく。

指導範囲が広い職種であり、一人の教員が多くの教科を受け持っている。得意科目への配置転換など適材適所の体制を行う。指導経験のある教員でサポート体制をつくる。学習指導は教科担当教員に協力を仰ぐ。

学生数の増加に伴い実習施設・指導者確保の活動をしている。事前情報がない事により実習が困難な事もあった。事前の説明時の確認が必要になってくる。また「臨地実習打ち合せ会」への参加をお願いし学習内容の統一化・共通認識を持って指導に携わって頂きたい。良好でない指導法が確認できた場合は可能な限り改善を求めて行きたい。

関連団体への参加や研修会については依然個人参加が中心になっており、教員負担が大きい。

歯科衛生士科では付属の診療室がない為、教員自身の技術の向上は本人に委ねている。教員が安定した技術を維持するためにも専任教員の実践できる臨床施設が必要であると考えます。

能力開発、研修については個人で参加しているケースもあり、近年の学生の変化に対応するため、学校全体で実施される研修会の開催が必要と思われる。また外部での研修等に頼っている現状もあり、学科で共有できるような研修会も望まれる。

(4) 学修成果

評価項目	評価
1) 就職率の向上が図られているか	4.0
2) 国家試験合格率の向上が図られているか	3.8
3) 退学率の低減が図られているか	3.2
4) 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3.2
5) 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3.8

<課題と改善方策および委員会の意見>

1年生時から国家試験対策セミナーや個別対応などを行ってきたが、結果に結びついていない。1年生時からの対応を具体的に明確化させ、ICT教育を進め自宅でも学習できる環境を確保する。グループワークを中心としたサポートなどにより、学習意欲の低下を防止したい。

国家試験に臨む姿勢・意識の向上を早期に持てない学生がいた。行動変容を図るために、教員・学生に協力を要請したが、臨地実習が終了した後の短期間では難しいと考える。入学当初より個人への対応を強化する。

自身の意思での職業選択での入学の場合は、職業や学習内容について十分に調べていない為、戸惑いが生じる傾向にある。その結果成績不良になり退学の理由ともなっている。学生の動向に関しては、科内で情報交換し保護者への情報提供を行っているが一層早めの協力体制を図り対応が必要である。

卒後の勤務先や現状を把握するのは非常に難しい。同窓会などを通し、卒業生の現況を把握できるようなシステムを構築する必要がある。就職先の退社など連絡がつかない卒業生がいるため、出口調査の徹底とリスト作成なども必要。継続的に同窓会が中心となり同窓生の情報など発信できる人材が必要であると考えられる。

(5) 学生支援

評価項目	評価
1) 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4.0
2) 学生相談に関する体制は整備されているか	4.0
3) 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4.0
4) 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4.0
5) 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4.0
6) 学生の生活環境への支援は行われているか	4.0
7) 保護者と適切に連携しているか	4.0
8) 卒業生への支援体制はあるか	4.0
9) 学生、卒業生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4.0
10) 高等学校や地域、業界団体との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4.0
11) 学生に対するパワーハラスメントやセクシャルハラスメントを防ぐ対策を講じているか	4.0

<課題と改善方策および委員会の意見>

現状では適正である。今後も継続したい。

(6) 教育環境

評価項目	評価
1) 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.8
2) 学内外の実習施設、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4.0
3) 防災に対する体制は整備されているか	2.9

<課題と改善方策および委員会の意見>

緊急時対応として安全確保のマニュアルを整備した。運用に向けた取り組みを加速させる。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	評価
1) 学生募集活動は、適正に行われているか	4.0
2) 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4.0
3) 学納金は妥当なものとなっているか	4.0

<課題と改善方策および委員会の意見>

概ね適正である。新型コロナウイルスの影響でガイダンスができない時にはリモート、オンラインでの活動をおこなった。

(8) 財務

評価項目	評価
1) 中長期的に学校の財務基盤は安定しているか	3.5
2) 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4.0
3) 財務について会計監査が適正に行われているか	4.0
4) 財務情報公開の体制整備はできているか	4.0

<課題と改善方策および委員会の意見>

ここ2年間の計画は順次達成できており安定してきている。コロナウイルスの影響は心配である。

(9) 法令等の遵守

評価項目	評価
1) 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4.0
2) 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4.0
3) 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4.0
4) 自己評価結果を公開しているか	4.0

<課題と改善方策および委員会の意見>

法に則って適正に運営している。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価
1) 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4.0
2) 学生のボランティア活動を推奨、支援しているか	3.8
3) 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実習しているか	3.5
4) 地域や町内の行事や活動、奉仕作業への参加など、地域と学校との連携を図っているか	3.0

<課題と改善方策および委員会の意見>

特定の学生のみがボランティア活動を行っており、他の学生の参加を促す必要がある。ボランティア活動の日程など、募集や告知を出るだけ早急に行う。歯科衛生士科では多くの体験が出来るように、歯科医師会・歯科衛生士科会へ学生向けの活動案内を頂けるよう引き続き依頼する。

鍼灸科教員の負担増につながるため、地域コミュニティ施設での鍼灸講座などが十分に行えていない。地域貢献の観点から講座開講には今以上に教員の確保が必要であり協議をしていく。

歯科衛生士専任教員だけでなく、歯科医師専任教員の参加・協力も得られるような体制の構築を行う。

限られた活動への参加となり、特定の教員や学生に一任している。町内の行事や活動日程など、募集や告知を行い積極的に参加するよう促し、積極的に参加する事を心がける。

6. その他の意見

・授業アンケートの頻度はどのくらいか。またどのように活用しているか。

→学校では前期・後期に分けて3科でアンケートを実施している。結果は集計して学生の意見として各教員に配布している。今後の授業の構成や取り組み、実施方法について検討するように活用している。

・原級留置者の推移はどうなっているか。

→過去3年分のデータを参照し、柔整科は2017年度の5%台と比べて1%台に減少している。鍼灸科は各年度ともに1名～2名で推移している。歯科衛生士科は2017、2018年度が1%未満であったが、昨年度のみ2%台に上昇した。

・退学者の減少を図るために、どのように専門職の魅力や職業観を学ぶ教育を行っているか。

→柔整科では学生・教職員間のコミュニケーションを図る企画を実施してきたが、職業観の育成は難しい。鍼灸科で実施した卒業生講話を今後取り入れていきたい。鍼灸科では今年度卒業生講話を取り入れた。学生が職業意識や目標を得られるようになった。さらに全日本鍼灸学会東北支部の講座に参加する機会を設けている。またスポーツ現場での外部実習や介護実習を入れて職業意識を持たせたい。歯科衛生士科では職業の魅力や職業観を多くは授業の中で教員に任せている。歯科衛生士会からの便りを配布する際に内容をわかりやすく周知するように努めている。研修会の案内も行っている。今後はセミナーなども実施したい。

・日本語学科や保育園など新たな取り組みをしたが、人材教育をどのようにしたか。また他科とどのよ

うに連携をしているか。

→日本語学科では科内の教育に力をいれている。キャリアのある先生ばかりではないので他校とも連携協力している。保育園は4月より社会福祉法人から学校の運営に切り替わった。保育園職員には説明済みである。また職員とは繰り返し面談してコンセンサスを図っている。

・キャリア教育に関して鍼灸科の卒業生講演は有効である。今の学生にとっても今後につながるのぜひ他科でも取り入れてほしい。また業界で活躍している方の講義をすることもキャリア教育に繋がると思う。

・退学者の減少や学力の向上に努力していると感じる。今後とも継続して取り組んでほしい。

・新型コロナウイルスの影響は暫く続くと思われる。評価項目に感染予防対策を盛り込んでほしい。